

新生活について

第5期OB 松山 昌司

商社で働くというと、終電、もしくはタクシーで深夜に帰宅。毎日のように先輩方から飲みに誘われる日々。短時間睡眠の日々。体力的に厳しい毎日は私は思い描いていました。しかし、コンプライアンスにおける残業時間の見直しから遅くとも22時には退社を求められ、また先輩方は就業後の会食もしくは家族サービスのため、飲みの誘いはほとんどありません。ということは、就業後何も予定を入れていなければ、遅くとも23時には帰宅でき、寝ようと思えば0時には就寝できます。時代は変わったのだ。小野ゼミに在籍していた頃は、眠たい目を擦ってコーヒーや眠〇打破を飲んでケース、ディベート、課題、論文など夜を徹して取り組んだ記憶があるが、眠りたいという欲求を抑え込むことの苦しさ、翌朝の疲労感は耐え難いものでした。睡眠時間が十分確保できる毎日、これは最高です。



現役時代、夏合宿にて耐え難い疲労感に苦しむ著者！？

現在、私は5期ゼミ長森本君と同じ部署で働いています（森本君は大阪、私は東京）。仕事内容は簡単に言うと事務作業で、1日中パソコンと格闘しています。正直動き回るのが好きな僕には合わない仕事ですが、あと2年ほど続けなければなりません。また、隣の事務職のオバサマ（年齢不詳）からは毎日のように怒られっぱなしです。随分今の仕事嫌そうだなとお思いになると思いますが、意外とそうでもないんです。毎日必ず違った問題が発生するので、それを1つ1つ潰していきます。毎日違った達成感を感じながら楽しんで仕事をしています。そうはいうものの、パリやミラノ、ロンドン、ニューヨークへ出張に行く先輩方は羨ましいもので、いつかは自分も...と思いつつこれからも頑張っていこうと思います。

抽象的な内容になってしまいましたが、あまり具体的に書いてしまうと森本君が「仕事内容が違いすぎる、松山ええな～」と拗ねてしまうので、そのところご了承下さい。